

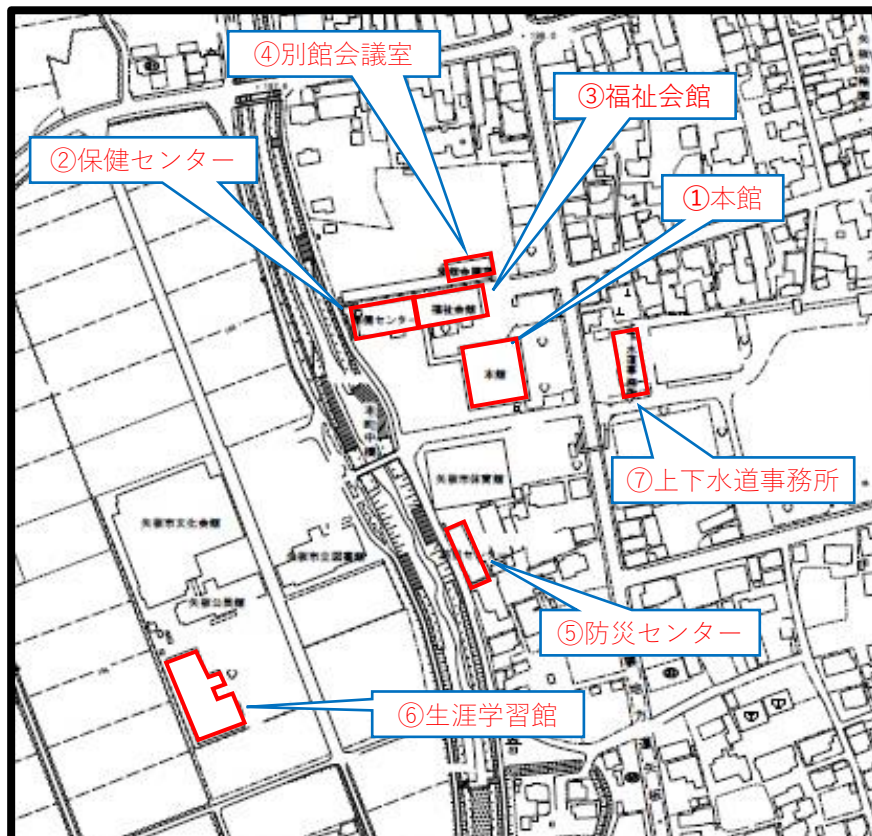
(2) 市庁舎の状況について

1 庁舎配置

庁舎（本館）については、昭和 37 年に建設され、既に建設後 60 年が経過しており、建物及び設備の老朽化が進んでいます。

また、人口増加や業務の多様化により、昭和 53 年に保健センター、昭和 63 年に福社会館、平成 3 年に生涯学習館が建設されました。

そのほか、現在の別館会議室、上下水道事務所を、当時の所有者より、随時、譲り受け現在に至っていますが、その結果として庁舎が複雑化しわかりにくくなっており、市民の方にとって利用しにくい状況となっています。



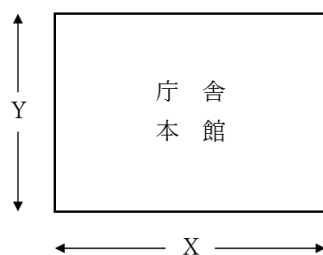
番号	名 称	構造	延床面積 (㎡)	建築 年度	経過 年数	耐用 年数	備 考
①	本館	R C 造	2,519	S 37	60	50	
②	保健センター	R C 造	1,226	S 53	44	50	
③	福社会館	R C 造	971	S 63	35	50	
④	別館会議室	S 造	512	S 52	45	38	栃木県より
⑤	防災センター	R C 造	227	S 57	40	50	
⑥	生涯学習館	R C 造	1,491	H 3	32	50	
⑦	上下水道事務所	R C 造	536	S 44	54	50	塩谷広域 行政組合より

2 耐震性

庁舎本館については、平成 18 年度に耐震診断を実施し、次のような結果が出ています。

本館耐震診断結果

方向	1 階	判定	2 階	判定	3 階	判定	塔屋	判定
X (桁行)	0.34	×	0.33	×	0.95	○	1.10	○
Y (梁間)	0.36	×	0.28	×	0.33	×	0.91	○



耐震強度の基準（※震度 6 強程度の地震に対して）

耐震強度	Is 値（※1） < 0.3	$0.3 \leq \text{Is 値} < 0.6$	$0.6 \leq \text{Is 値}$
地震に対する安全性	倒壊又は崩壊の危険性が高い	倒壊又は崩壊の危険性がある	倒壊又は崩壊の危険性が低い

※1 Is 値（構造耐震指数）

建築物の地震に対する安全性を示す指標で、この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。災害時に拠点となる公共施設は Is 値 0.75 以上（Is 値 0.6 の 1.25 倍以上）、災害対策活動の拠点となる公共施設は Is 値 0.9 以上（Is 値 0.6 の 1.5 倍以上）の耐震強度が求められる。

これらの表のとおり、庁舎本館は 1 階や 2 階など Is 値が 0.3 程度で 2 階 Y 方向では 0.3 未満の部分があり、震度 6 強程度の地震により大きな被害を受ける可能性が高い状況にあります。

3 庁舎の劣化状況

- 1 場所：本庁舎（外観）
状況：－



- 2 場所：本庁舎南側（屋根）
状況：剥離（ネットで剥落防止）



- 3 場所：本庁舎3階 議場（天井）
状況：雨漏り



- 4 場所：本庁舎3階 階段（天井）
状況：雨漏り



- 5 場所：本庁舎地下 機械室（天井）
状況：剥離



- 6 場所：本庁舎地下 機械室（壁）
状況：地下水漏水（溝で滞水対策）



7 場所：保健センター（外観）
状況：－



8 場所：福祉会館（外観）
状況：－



9 場所：保健センター1階（トイレ）
状況：排水不良



10 場所：福祉会館 北側外壁
状況：ひびわれ



11 場所：保健センター 北側外壁
状況：外壁剥離、ひびわれ、腐食



12 場所：福祉会館 北側外壁
状況：外壁剥離、ひびわれ

